福山

びんご そこが聞きたい

携帯メールで緊急情報
不安を解消 即応に工夫

びんご聴覚障害者防災連絡協議会
和泉　正人事務局長

県東部4市2町のろうあ者や難聴者たちが「びんご聴覚障害者防災連絡協議会」を結成した。緊急情報を携帯電話メールで伝える体制作りを進める。福山市西町の事務局で、和泉正人事務局長(57)に取り組みや現状の課題を聞いた。（迫佳恵）

―発案の理由は何ですか。

聴覚障害者は、行政の広報車や防災無線の情報を聞き取れない。ファクスで問い合わせる方法もあるが、いつ来るか分からない返事を長時間待つわけにもいかない。不安を解消する対策が必要だ。

―どのような支援を考えていますか。

行政側も、登録制で防災情報の携帯電話メールを配信している。だが、文章が長すぎて瞬時に危険や緊急の度合いが判断できない。箇条書きで読みやすい情報に加工して追加的に配信すれば、解決に結びつくのではないかと考えた。返信も受け付け、問い合わせに機敏に対応できる態勢を工夫する。

―準備はどこまで進みましたか。

市聴覚障害者地域活動支援センターに事務局を置いた。配信作業はセンターの職員が担う。現在は2人だが、あと1人を募集中だ。会員から地元の情報を寄せてもらい、随時送信する。メール文の背景に色を付け、緊急度が瞬時に分かる工夫も考えている。梅雨時期の6月にはサービスを始めたい。当事者が研究して、安心な仕組みを作り上げたい。

―どのような課題がありますか。

協議会に加わる聴覚障害者は約280人。加盟していない人も多いはずだ。積極的にPRして参加を増やす。情報を受け取るために携帯電話は欠かせない。携帯電話を利用していない人に必要性を説き、使い方の講習会も開いて普及に努める。町内会長や民生委員と話し合う機会も持つ。聴覚障害者への理解や、聴覚障害者自身が担える役割などを協議していく。

「聴覚障害者が安心できる仕組みをつくりたい」と手話で語る和泉事務局長

いずみ・まさと　尾道市出身。1975年、広島大理学部卒業後、県内のろう学校の教諭を2006年まで勤めた。現在は市聴覚障害者地域活動支援センターの職員。県ろうあ連盟総務部長や尾道ろうあ協会長などを務める。尾道市栗原町在住。

クリック
びんご聴覚障害者防災連絡協議会　福山、尾道、三原、府中の4市にあるろうあ協会や手話サークル、難聴者協会、要約筆記サークル計21団体の約700人で、1月8日に結成。災害情報の発信のほか、防災訓練、安全確保対策の研究、行政への提言などを事業に掲げる。

食や運動で花粉症軽減
福山で対策紹介イベント

シェフ㊨の説明を聞きながら特製ランチを味わう来場者

医療や食、スポーツなど多角的な花粉症対策を紹介するイベントが30日、福山市東手城町の複合医療モール「東手城ヘルスケアモール」であった。今年はスギ花粉の飛散量が昨年より増えると予想され、専門医は早めの対応を呼び掛けた。

2月に分院を開院する耳鼻咽喉科の堀病院（同市沖野上町）の宇高毅副院長(39)が予防策を講演。「自分に合った薬の処方を受け、飛散が本格化する前から服用を始めるのが悪化させないこつ」と話し、マスク着用など体内に花粉を取り込まない方法を紹介した。

モール内のレストランは、青魚や黒酢などアレルギー抑制に効果がある食材を使った特製ランチを販売した。同市港町の主婦中田富士子さん(61)は「家族にも食べさせたい」とレシピを聞いていた。

症状を軽くするヨガの指導、治療薬を紹介するコーナーもあり、家族連れなどでにぎわった。（伊藤敬子）

日用品加工し楽器に
ジャグバンドライブ
府中で来月

洗濯板などの日用品を楽器として使う音楽「ジャグバンド」のライブが2月26日午後7時半から、府中市高木町のライブ喫茶「a1ways」である。福山市のバンド「すきま風と愉快な仲間達」の宮脇敏博代表(59)＝福山市千田町＝が、愛好者を広げるために企画した。

バケツとほうきの柄で張った1本のワイヤは、ベースの代わりになる。金属製の洗濯板をスプーンでこすり、水差しや瓶の口に息を吹きかけて音を出す。神戸市のバンド「ラグパパ」も出演し、アニメソングやオリジナル曲を演奏する。

英語でジャグは、水差しを意味する。演奏

尾

「な

三原市消防署北部分署は2月1日から4月30日まで、たき火や草焼きが燃え広がる失火の防止に向け声掛け活動を実施する。初めて試みた昨年は、田畑やあぜ道の手入れが盛んになる春先の失火を減らし、年間の失火件数を大幅に抑え込むことに成功した。（杉原和磨）

30年

尾道市の千
ープウェイ（
5㌔）は30日
した客車の運
た。2月9日
の交換工事の
し、車体とデ
一新して10日
に運行を再開
最終便は午
分、同市長江
と東土堂町の